

ヲ認メ候ニ付キ目下尙調査中ニ係ル法典ノ各部カ實施セラレ、ニ至ル迄ハ條約第二十一條第一項ニ記載シタル所ノ通知ヲ爲サ、ルコトヲ相約シ候下名ハ茲ニ重テ男爵フォン、マルシヤル閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具
千八百九十六年四月四日伯林ニ於テ

子爵 青木 周藏

國務大臣獨逸國務大臣

男爵マルシヤル、フォン、ビーベルスタイン閣下

○農商務省令第九號 明治二十九年十一月二十日

- 第一條 外國在住者ニシテ發明ノ特許、意匠、商標ノ登録ニ關シ出願又ハ請求ヲ爲ストキハ帝國内ニ在住スル者ヲ以テ代人トナシ委任狀ヲ提出スヘシ
- 第二條 外國人ニシテ特許又ハ登録ニ關シ出願又ハ請求ヲ爲ストキハ其願書又ハ請求書ニ國籍證明書ヲ添附スヘシ
- 第三條 願書、明細書、請求書其他屆書類ハ日本文ニテ認ムヘシ
- 第四條 代人委任狀國籍證明書等外國文ニテ認メアルモノハ其譯文ヲ添附スヘシ

◎追加

第一章 官制

○勅令第二百五十三號 明治三十年七月三十一日

内務省官制中左ノ通改正ス

第二條中、褒賞ノ下ニ、並ニ戶籍ヲ加ノ

第三條 内務省專任參事官ハ四人專任書記官ハ五人ヲ以テ定員トス

内務省ニ專任内務事務官五人專任監獄事務官一人ヲ置ク

内務事務官ハ奏任トス各局ニ屬シ其ノ事務ヲ掌ル

監獄事務官ハ奏任トス監獄局ニ屬シ其ノ事務ヲ掌ル

第四條 内務省ニ左ノ七局ヲ置ク

縣治局

警保局

土木局

衛生局

社寺局

監獄局

庶務局

第五條 縣治局長、警保局長、土木局長、衛生局長及社寺局長ハ勅任トシ監獄局長及庶務局長ハ奏任トス

第七條中 二項四項及六項ヲ削除ス

第十一條 監獄局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 監獄ニ關スル事項

二 假出獄及監視假免ニ關スル事項

第十二條 庶務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項

二 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項

三 官有地處分並管理ニ關スル事項

四 土地收用ニ關スル事項

五 官有地地種目變換ニ關スル事項

第十三條 內務省ニ專任技師六人專任技手二十二人ヲ置ク

內務省屬ハ二百四十八人ヲ以テ定員トス

○勅令第九十一號 明治三十年六月十二日

警視廳官制中左ノ通改正ス

第三條 警視ハ二十七人警察醫長消防司令長ハ各一人典獄ハ三人奏任トス

第四條中「四百二十人」ヲ「四百十四人」ニ改ム

第九條中「郡長島司」ヲ「島司郡區長」ニ改ム

第十五條 總監官房ニ主事一人巡視二人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ補ス

第二課長ハ主事ヲ以テ之ニ充テ第一課長第三課長ハ巡視ヲシテ之ヲ兼ネシメ

又ハ警部警視屬ヲ以テ之ニ充ツ

主事ハ警視總監ノ命ヲ承ケ第一課第三課ノ事務ヲ佐クルコトアルヘシ

官房各課員ハ警部警視屬ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其ノ課ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

課員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課ノ庶務ニ従事ス

巡視ハ警視總監ノ命ヲ承ケ警察事務及消防事務ノ實況ヲ巡閱點檢シ及傳令ノ

事ヲ掌ル

第十六條中第三部ノ次ニ第四部ヲ加ヘ監獄署ヲ削ル
 第十七條ヲ第十八條ニ改メ同條中第一部ヲ第二部ニ改ム
 第十八條ヲ第十七條ニ改メ同條中第二部ヲ第一部ニ改ム
 第二十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
 第二十條ノ二 第四部ニ於テハ監獄ニ關スル事務ヲ掌ル
 第二十一條第一項左ノ通改ム
 第一部長第二部長ハ警視第三部長ハ警察醫長第四部長ハ典獄ヲ以テ之ニ補ス
 同條第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 第四部員ハ監獄書記看守長ヲ以テ之ニ充テ監獄署員ノ内ヲシテ之ヲ兼テシム
 第二十二條第二項左ノ通改ム
 第一部長ハ警察事務ニ付警察署長以下第四部長ハ監獄事務ニ付監獄署長以下
 ヲ指揮スルコトヲ得
 第二十六條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 警察署長水火災ニ際シ消防署長出場前ニ於テ消防分署長以下ヲ指揮スルコトヲ得

第二十七條 東京府下ニ三監獄署ヲ置ク在監人ノ分配ハ警視總監之ヲ定ム監獄
 署ニ分課ヲ設クルコトヲ要スルハ警視總監之ヲ定メ内務大臣ニ報告スヘシ
 第二十九條第一項及第三項左ノ通改ム
 監獄署長ハ典獄ヲ以テ之ニ補ス但監獄署長ノ内一人ハ第四部長ヲシテ之ヲ兼
 ネシム
 監獄支署長ハ監獄書記ヲ以テ之ニ充ツ
 第三十條第三項左ノ通改ム
 監獄署員監獄支署員ハ監獄書記看守長ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄
 ノ事務ニ従事ス
 ○勅令第百六十一號 明治三十年七月廿七日
 明治二十九年勅令第八十九號臺灣總督府評議會章程中左ノ通改正ス
 第二條 評議會ハ明治二十九年法律第六十三號ニ依ル命令ヲ議決スルノ外總督
 ニ於テ特ニ必要ト認メテ諮詢スル事項ニ付意見ヲ答申スルモノトス
 ○勅令第百五十二號 明治三十年五月三日
 臺灣總督府地方官官制

第一條 臺灣ニ臺北縣、新竹縣、臺中縣、臺南縣、鳳山縣、宜蘭縣、臺東縣、及澎湖島廳ヲ置ク其位置及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

第二條 各縣ニ左ノ職員ヲ置ク

知事

書記官

警部長

稅務官

技師

典獄

警視

屬

技手

警部

看守長

監獄書記

通譯

第三條 各廳ニ左ノ職員ヲ置ク但シ臺東廳ニハ當分ノ內財務長ヲ置カス

廳長

書記官

財務長

警視

屬

技手

警部

看守長

監獄書記

通譯

第四條 知事ハ一人勅任トス

第五條 廳長ハ一人奏任トス

第六條 書記官ハ各縣二人各廳一人奏任トス

第七條 警部長、財務長、稅務官及典獄ハ各一人奏任トス警視ハ奏任トシ各縣各廳ヲ通シテ二十人ヲ以テ定員トス

第八條 屬警部、看守長、監獄書記及通譯ハ判任トシ各縣各廳ヲ通シテ千二百人ヲ以テ定員トス其ノ各縣各廳ノ定員ハ臺灣總督之ヲ定メ其各官ノ定員ハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ知事、廳長之ヲ定ム

第九條 技師ハ縣、技手ハ縣又ハ廳ノ須要ニ依リ俸給豫算定額内ニ於テ適宜之ヲ置クコトヲ得

第十條 知事、廳長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス

第十一條 知事、廳長ハ部内ノ行政事務ニ付其職權若ハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又其一部ニ縣令廳令ヲ發スルコトヲ得

第十二條 知事、廳長ハ辨務、署長ノ處分若ハ命令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其處分若ハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第十三條 知事、廳長ハ非常急變ニ際シ兵力ヲ要スルキハ其附近地ノ旅團長若ハ守備隊長ニ出兵ヲ要求スルコトヲ得

第十四條 知事、廳長ハ所部ノ官吏ヲ監督シ奏任官ノ功過ハ臺灣總督ニ具狀シ判任以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第十五條 知事、廳長ハ所部ノ奏任官ノ懲戒ヲ臺灣總督ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十六條 知事、廳長ハ廳中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十七條 知事、廳長事故アルトキハ上席高等官其職務ヲ代理ス

知事、廳長ハ縣廳ノ官吏ヲシテ其事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十八條 知事、廳長ハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ其職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ辨務、署長ニ委任スルコトヲ得

第十九條 各縣ニ知事官房、內務部、財務部、警察部及監獄署各廳ニ庶務課、財務課、警察課及監獄署ヲ置ク其ノ事務ノ分掌ハ知事、廳長、臺灣總督ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム但シ臺東廳澎湖廳ニハ當分ノ內財務課ヲ置カス庶務課ニ於テ其ノ事務ヲ掌理ス

第二十條 縣ニ在テハ書記官ノ一人ハ內務部長一人ハ財務部長、警部長ハ警察部長、典獄ハ監獄署長トナリ知事ノ命ヲ承ケ所部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス稅務官ハ財務部ニ屬シ租稅ニ關スル事務ヲ掌理ス

廳ニ在テハ書記官ハ庶務課長警視ノ内一人ハ警察課長財務長ハ財務課長トナ
リ廳長ノ命ヲ承ケ所部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第廿一條 縣ニ在テハ各部長又ハ監獄署長事故アルトキハ知事ニ於テ縣官吏ノ
一人ヲシテ其事務ヲ代理セシメ廳ニ在テハ各課長又ハ監獄署長事故アルトキ
ハ廳長ニ於テ廳官吏ノ一人ヲシテ其事務ヲ代理セシム

第廿二條 屬ハ縣ニ在テハ知事官房内務部又ハ財務部ニ屬シ廳ニ在テハ庶務課
又ハ財務課ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第廿三條 警部ハ警察課又ハ警察署若ハ警察分署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ事務
ヲ分掌シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第廿四條 看守長ハ監獄署又ハ監獄支署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ
掌リ看守ヲ指揮監督ス

廳ニ在テハ看守長ヲ以テ監獄署長ニ充ツ

第廿五條 監獄書記ハ監獄署又ハ監獄支署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事
ス

第廿六條 通譯ハ縣廳ノ各部課及其ノ他ノ官署ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯

ニ従事ス

第廿七條 縣廳内須要ノ地ニ警察署ヲ置ク其ノ位置名稱及管轄區域ハ臺灣總督
之ヲ定ム

知事廳長ハ必要ト認ムルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ警察署ノ下ニ警察分署
ヲ置クコトヲ得

第廿八條 警察署長ハ警視又ハ警部警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

警察署長警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官
吏ヲ監督ス

第廿九條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第三十條 知事廳長ハ必要ト認ムルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ監獄署ノ下ニ
監獄支署ヲ置クコトヲ得

監獄支署長ハ看守長ヲ以テ之ニ充ツ

監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第卅一條 縣廳職員ノ外警察醫及監獄醫ヲ置キ判任官ノ待遇トス

第卅二條 縣廳ニ參事ヲ置クコトヲ得

參事ハ各縣各廳ニ五人以内トシ奏任官ノ待遇トス
參事ハ縣廳管轄内ニ居住シ學識名望アル者ニ就キ拓殖務大臣ヲ經テ臺灣總督
之ヲ奏薦宣行ス

第卅三條 參事ハ地方ノ行政事務ニ關シ知事廳長ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フルモ
ノトス

參事ハ知事廳長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事スルコトアルヘシ

第卅四條 縣廳内須要ノ地ニ辨務署ヲ置ク其位置名稱及管轄區域ハ臺灣總督之
ヲ定ム

第卅五條 各辨務署ニ左ノ職員ヲ置ク

署長

主記

第卅六條 署長一人奏任又ハ判任トス

第卅七條 主記ハ判任トシ各辨務署ヲ通シテ六百人ヲ以テ定員トス其ノ各縣廳

下ノ定員ハ臺灣總督之ヲ定メ其ノ各辨務署ノ定員ハ知事廳長之ヲ定ム

第三十八條 署長ハ知事廳長ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事

務ヲ掌理ス

第四十條 署長ハ部下ノ官吏ヲ監督シ其ノ進退功過ヲ知事廳長ニ具狀ス

第四十一條 署長ハ部内ノ街庄社長ヲ監督シ其ノ進退及成績ヲ知事廳長ニ具狀ス

第四十二條 署長事故アルトキハ上席主記ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

署長ハ部下ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第四十三條 主記ハ署長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十四條 辨務署ニ參事ヲ置クコトヲ得

參事ハ各署五人以内トシ判任官ノ待遇トス

參事ハ辨務署管轄内ニ居住シ學識名望アル者ニ就キ知事廳長之ヲ命ス

第四十五條 參事ハ部内ノ行政事務ニ關シ署長ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フルモノ
トス參事ハ署長ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事スルコトアルヘシ

第四章 任用及待遇

○勅令第九十四號 明治三十年六月十二日

巡視ニ補スヘキ警視及消防司令長ハ警察署長ノ職ヲ奉スル警視又ハ五箇年以上

左ニ記載シタル職ヲ奉シ現ニ判任官二級俸ノ官職ニ在ル者ニ限リ當分ノ内試験ヲ要セス文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

巡視ニ補スハキ警視ハ警部

消防司令長ハ警部又ハ消防士

○勅令第二百十五號 明治三十年六月十九日

警部監獄書記看守長特別任用令

第一條 巡查看守在職三箇年以上ニシテ精勤證書ヲ有シ現ニ其ノ職ヲ奉スル者ハ實務ノ成績ヲ考查シ及學術ヲ試験シ巡査ハ警部ニ看守ハ監獄書記看守長ニ任用スルコトヲ得

巡査ニ關スル考查及試験ハ警視廳ニ在テハ本廳勤務ノ警視三人北海道廳府縣ニ在テハ書記官警部長參事官看守ニ關スル考查及試験ハ集治監ニ在テハ典獄警視廳ニ在テハ警視二人第四部長北海道廳府縣ニ在テハ書記官參事官ノ内各一人トス

第二條 考查ノ方法及試験ノ科目ハ内務大臣拓殖務大臣之ヲ定ム

第三條 明治二十三年勅令第四百四十六號ニ依リ任用セラレタル看守長ハ監獄書

記ニ轉任スルコトヲ得

第四條 明治二十三年勅令第十號及明治二十三年勅令第四百四十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○内務省訓令第十四號 明治三十年七月七日

巡查看守考試規程

第一條 巡查看守ヲ警部又ハ監獄書記看守長ニ任用スルニハ先ツ實務ノ成績ヲ考查シ優等者ヲ選拔シテ更ニ學術試験ヲ行フモノトス

第二條 巡査及看守ノ實務成績ハ廳府縣長官ノ定ムル所ニ從ヒ考查表ヲ備置左ノ項目ニ從ヒ隨時記入スヘシ

一 姿勢禮式服裝其ノ他紀律ニ關スル事項

二 職務執行ノ當否

三 勤務ノ勉否

四 書類報告ノ整否

其ノ他廳府縣長官ノ定メタル事項

第三條 實務成績ノ考查ハ監督ノ任アル警部又ハ看守長ノ意見ヲ徵シ考查表ニ

照合シテ優劣ヲ判定スルモノトス

第四條 學術試験ハ左ノ科目ニ從ヒ之ヲ行フ但外國語ハ便宜之ヲ省略スルコトヲ得

巡查

看守

- 一 憲法行政法ノ大意
- 二 刑法刑事訴訟法裁判所構成法
- 三 警察ニ關スル諸法規
- 四 算術(比例百分算迄)
- 五 外國語

○勅令第九十六號 明治三十年六月十六日

内閣總理大臣秘書官及各省大臣秘書官官等ノ初叙及陞叙ハ高等官官等俸給令第七條及第八條ノ規程ニ依ラサルコトヲ得但シ他官ヨリ秘書官ヲ兼ヌル者ハ此ノ限ニアラス

○勅令第九十七號 明治三十年六月十六日

第一條 本年勅令第九十六號ニ依リ高等官五等以上ノ秘書官ニ任用セラレタル者又ハ同令ニ依リ在職年數ニ拘ラス陞等シタル者他ノ奏任文官ニ轉任シ又

ハ其ノ官ヲ退キ他ノ奏任官ニ再任スル場合ニ於ケル官等ハ本令ノ規程ニ依ル
第二條 秘書官ニ初任シタル者ニ在テハ高等官六等以下トス但シ秘書官在職年數ニ應シ高等官官等俸給令數ニ應シ高等官官等俸給令第八條ニ依リ六等ニ對シ一等若ハ數等ヲ陞叙スルコトヲ得

第三條 在職年數ニ拘ラス陞等シタル者ニ在テハ前奏任文官又ハ本令施行ノ際ニ於ケル秘書官ノ官等以下トス但シ秘書官在職年數ニ應シ高等官官等俸給令第八條ニ依リ同前官又ハ本令施行ノ際ニ於ケル秘書官ノ官等ニ對シ一等若ハ數等ヲ陞叙スルコトヲ得其ノ前官又ハ本令施行ノ際ニ於ケル秘書官ノ官等七等以下ノ者ニ在テハ第二條ノ例ニ準ス

第四條 第二條第三條ニ依リ他ノ奏任文官ニ轉任又ハ再任シタル者ノ陞等ニ關シテハ其ノ秘書官タル前ノ他官官等在職年數本令施行前ノ秘書官官等在職年數并ニ轉任又ハ退官現時ノ秘書官在職年數ヲ通算ス

第八章 教習訓授點檢

○内務省訓令第十五號 明治三十年七月七日

廳 府 縣 東京府 除ク

巡查教習概則

- 第一條 初テ採用シタル巡查ニハ二箇月以上必要ナル學科及實務ヲ教習スヘシ但警察官タリシ經歷ヲ有スル者及學術ノ素養アル者ニ對シテハ教習ノ期間ヲ短縮シ又ハ教習ノ全部若クハ一部ヲ省略スルコトヲ得
- 第二條 教習ハ巡查教習所ニ於テ之ヲ行フヘシ但實務教習ハ警察署ニ於テ先任巡查ノ部伍ヲ加ヘテ之ヲ行フコトヲ得
- 第三條 警部長ハ時々巡查教習所ニ臨ミ教習ノ方法ヲ監督シ且教習中ノ巡查ニ對シテ訓授スヘシ
- 第四條 教習ノ成績ハ教習期限ノ終末ニ於テ試験スヘシ
- 第五條 教習ヲ受ケタル巡查ハ教習成績ノ試験ニ合格スルニアラサレハ實務ニ服セシムルコトヲ得ス但臨時警戒ヲ要スルニ當リ巡查ノ人員ニ不足ヲ告クルトキハ實務ヲ補助セシムルコトヲ得
- 第六條 教習ヲ卒リタル巡查ハ一定ノ期間警察署詰警察分署詰勤務ニ服セシメタル後ニアラサレハ駐在所詰ト爲スコトヲ得ス
- 第七條 本則施行ノ爲必要ナル條項ハ廳府縣長官之ヲ定メ内務大臣ニ報告スヘシ

シ

第八條 明治十九年内務省訓令訓第一二四號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十章 警察官配置及勤務法並請願巡查

○内務省訓令第十六號 明治三十年七月七日

廳府 縣東京府ヲ除ク

巡查配置及勤務概則

- 第一條 巡查ハ巡查部長並内勤外勤特務刑事及教習中ノ巡查ニ區別シ其ノ配置及勤務ノ方法ハ廳府縣長官之ヲ定ム但内勤ニハ便宜雇員ヲ用ユルコトヲ得
- 第二條 外勤巡查ニ關シテハ其ノ受持區畫ヲ定メ二乃至六ノ受持區ヲ以テ一組合區ト爲ス
- 第三條 警察署警察分署所在地ニ於テハ組合毎ニ巡查派出所ヲ設ケ交代勤務セシムヘシ但土地ノ狀況ニ依リ巡查派出所ヲ設ケサルコトヲ得
- 第四條 警察署警察分署所在地ニアラサル地ニ於テハ受持巡查ヲシテ受持區内ニ駐在セシメ其ノ宿所ヲ以テ駐在所トスヘシ但土地ノ狀況ニ依リ組合ノ區畫

内ニ於テ一駐在所ヲ設ケ二名以上ノ巡查ヲ駐在セシムルコトヲ得

第五條 水上警察ノ爲必要アルトキハ便宜ノ地ニ巡查派出所ヲ設クヘシ

第六條 請願ニ依リ巡查ヲ配置スルトキハ請願者ノ費用ヲ以テ巡查派出所ヲ設クヘシ

第七條 臨時必要アリテ受持巡查ニアラサル巡查ヲ派遣スルトキハ便宜ノ地ニ巡查出張所ヲ設クルコトヲ得

第八條 巡查ノ勤務時間ハ毎日勤務ノ巡查ニ在テハ八時間乃至十二時間隔日勤務ノ巡查ニ在テハ十四時間乃至十八時間トス

第九條 警察署詰警察分署詰ノ巡查及警察署警察分署所在地ニ在ル巡查ハ毎朝其ノ半數ニ對シ其ノ他ノ巡查ハ毎月召集シテ點檢ヲ行ヒ實務及法令ノ應用ニ關スル事項ヲ訓授又ハ應問スヘシ

第十條 非常召集ノ方法ハ廳府縣長官之ヲ定ム

警察署長警察分署長ノ行フヘキ非常召集ハ毎年一回以上之ヲ行ヒ其ノ成績ヲ警部長ニ報告スヘシ

第十一條 本則施行ノ爲必要ナル條項ハ廳府縣長官之ヲ定メ内務大臣ニ報告ス

ヘシ
第十二條 明治二十一年内務省訓令第六四〇號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二章 賞罰

○内務省訓令第十三號 明治三十年六月二十四日

廳府 縣東京府ヲ除ク

明治二十一年訓令第二十一號警察賞與規則中左ノ通改正ス

第一條 警察上功勞アル者ハ本則ニ依リ賞與スルコトヲ得

第二條 警察賞與ハ功勞ノ輕重ニ從ヒ分テ左ノ三種トス

一 金拾五圓以上五拾圓以下ノ特別賞與

二 金拾五圓以下ノ賞與

三 賞詞

特別賞與ハ事ノ重要ニ涉リ功勞ノ特ニ著明ナルモノニ限リ之ヲ給スルコトヲ得

第三條 賞與ハ左ノ事項ニ該當シ特ニ功勞アル者ニ之ヲ行フ

一 罪犯ヲ逮捕シ又ハ逮捕ヲ容易ナラシメタル者
 二 人命ヲ救助シ又ハ救助ヲ容易ナラシメタル者
 三 水火災囚徒逃走惡疫流行等非常ノ際ニ臨ミ危難ヲ冒シタル者

第四條 刪除
 第五條 刪除
 第十三條 巡查ニシテ本則第三條ニ該當シ其ノ功勞特ニ顯著ナル者ニハ第二條ノ區別ニ從ヒ賞與ヲ行フコトヲ得
 第十六條 刪除
 第十七條中第七條ヲ第八條ニ改ム
 第十九條 刪除

○勅令第十四號 三十年二月十六日
 明治三十年一月十二日前ニ於テ懲戒又ハ懲罰ニ依リ免官免職セラレタル者並ニ停職ヲ命セラレタル者ハ其懲戒懲罰ヲ免除ス

第十九章 俸給令及給與

○勅令第四百四十五號 三十年五月十四日
 各省勅任參事官ノ官等ハ高等官一等及二等トシ其ノ年俸ハ三千五百圓トス

○勅令第四百九十二號 明治三十年六月十二日

警視廳高等官俸給令

第一條 警視廳高等官ノ年俸ハ左ノ如シ

警視總監

四 千 圓

警視 主事第一部長第二部長ニ補スル者

一級 二千二百圓
 二級 二千圓
 三級 千八百圓

四級 千六百圓
 五級 千四百圓

警視 巡視ニ補スル者
 警察醫長
 典獄 第四部長ニ補スル者

一級 千四百圓
 二級 千二百圓
 三級 千圓

警視 警察署長ニ補スル者

一級	二級	三級	四級	五級	一級	二級	三級	一級	二級	三級
千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓

消防司令長

典獄

第二條 警察署長ニ補スル警視ノ俸給區別ハ内務大臣其ノ警察署ニ就テ之ヲ指定スヘシ

○内務省告示第四十五號 明治三十年六月二十二日

明治三十年勅令第九十二號警視廳高等官俸給令ニ依リ警察署長俸給ノ區別ニ

關シ警察署ヲ指定スルコト左ノ如シ

麴町警察署 淺草警察署 芝警察署

右警察署長年俸千圓

京橋警察署 日本橋警察署 神田警察署 本所警察署 下谷警察署

右警察署長年俸九百圓

本郷警察署 深川警察署 品川警察署 牛込警察署 八王子警察署

麻布警察署 赤坂警察署

右警察署長年俸八百圓

四谷警察署 新宿警察署 小石川警察署

右警察署長年俸七百圓

小松川警察署 千住警察署 板橋警察署 水上警察署 府中警察署

青梅警察署

右警察署長年俸六百圓

○勅令第二百二十三號 明治三十年六月二十二日

判任官俸給令第三條ニ左ノ但書ヲ加フ

但八級俸以下ノ者ハ此ノ限ニアラス

○勅令第四百十九號 明治三十年五月十八日

巡查看守俸給令

第一條 巡查看守ノ月俸左ノ如シ

一級	十五圓
二級	十四圓
三級	十三圓
四級	十二圓
五級	十一圓
六級	十圓
七級	九圓

第二條 巡查看守ニ任命セラル、者ノ月俸ハ六級以下トス

判任官以上ノ官職ニ在リタル者及巡查又ハ看守ノ精勤證書ヲ有スル者ニシテ
巡查看守ニ任命セラル、トキハ前項ヲ適用セス但シ前職ノ月俸ヲ超ユルコト
ヲ得ス

第三條 巡查看守ニシテ五級以上ノ月俸ヲ受クル者ハ滿一年ヲ經過スルニアラ

サレハ昇級スルコトヲ得ス但巡查部長看守部長ニ拔擢セラル、者ハ此ノ限ニ
アラス

第四條 刑事專務又ハ通辨其他特別ノ技能ヲ有スル者ハ第二條第三條ヲ適用セ
ス

第五條 教習中ノ巡查看守ノ月俸ハ六圓乃至八圓トス

第六條 月俸ハ新任昇級降級復職トモ發令ノ翌日ヨリ計算シ退職ノ月ハ日割ヲ
以テ計算ス廢廳若ハ事務ノ伸縮ニ因リ免職シタルトキ又ハ休職死亡ノトキハ
當月分ノ全額ヲ給ス休職當月復職スルトキハ其ノ月ノ俸給ハ更ニ支給セス

第七條 病氣ノ爲執務セサルコト六十日ヲ踰ユル者及私事ノ故障ニ依リ執務セ
サルコト二十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ月俸ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍
ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此ノ限ニアラス

附 則

第八條 本令ハ地方ノ狀況ニ依リ明治三十一年三月三十一日迄其ノ施行ヲ延期
スルコトヲ得

第九條 明治二十三年勅令第二百二十八號中第四號明治二十四年勅令第六十九號及明治二十六年勅令第一百五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
第十條 本令ハ北海道ニ適用セス

第二十章 旅費

○内務省令第十六號 明治三十年六月九日
明治十九年^{月六}内務省令第十一號警察官吏其他内國旅費概則第九條中認可ヲ經テノ五字ヲ削ル

○内務省訓令第十二號 明治三十年六月九日

警視廳 府 縣

集治廳

假留廳

北海道廳ヲ除ク

明治二十年^{月四}内務省訓令第二十五號ニ依リ日當月額ヲ定メ明治二十四年^{月八}内務省訓令第十六號並明治二十九年^{月八}内務省訓令第六號ニ依リ旅費ヲ節減スルハ爾後本大臣ノ認可ヲ要セス但シ處分後本省ニ報告スヘシ

第二十八章 軍港要港

○海軍省令第九號 明治三十年六月二十六日
横須賀港規則中左ノ通改正ス

第七條 鎮守府司令長官ハ艦船第一區ニ入ラントスルニ當リ其積載物中危險ト認ムルモノアルトキハ之ヲ卸サシムルコトアルヘシ

第八條 凡テ艦船ハ鎮守府司令長官ノ特許アルモノ、外火藥庫ヲ距ル百三十間以内ニ進入スルコトヲ禁ス 瀛艦點火中ノ小蒸氣船及其ノ他一切ノ火氣ヲ有スル船舟亦同シ

軍港ノ山林原野ニ於テ濫リニ焚火スヘカラス

第九條 軍港ニ於テハ禮砲號砲及鎮守府司令長官ノ特許ヲ得タルモノ、外銃砲及水雷ノ發射其ノ他一切ノ爆發物ヲ發火スルコトヲ禁ス
陸上ニ於ケル公私ノ家屋ヲ距ルコト七十五間以内ノ海上ニ於テハ禮砲號砲ノ類ト雖一切銃砲ノ發放ヲ爲スコトヲ禁ス

○海軍省令第十號 明治三十年六月二十六日

吳軍港規則中左ノ通改正ス

第八條 鎮守司令長官ハ艦船第一區内ニ入ラントスルニ當リ其ノ積載物中危険ト認ムルモノアルトキハ之ヲ卸サシムルコトアルヘシ
第九條 凡テ艦船ハ鎮守府司令長官ノ特許アルモノ、外火藥庫ヲ距ル百三十間以内ニ進入スルコトヲ禁ス瀛艦點火中ノ小蒸瀛船及其ノ他一切ノ火氣ヲ有スル船舟亦同シ

軍港ノ山林原野ニ於テ濫リニ焚火スヘカラス

第十條 軍港ニ於テハ禮砲號砲及鎮守府司令長官ノ特許ヲ得タルモノ、外銃砲及水雷ノ發射其他一切ノ爆發物ヲ發火スルコトヲ禁ス
陸上ニ於ケル公私ノ家屋ヲ距ルコト七十五間以内ノ海上ニ於テハ禮砲號砲ノ類ト雖一切銃砲ノ發砲ヲ爲スコトヲ禁ス

○海軍省令第十一號 明治三十年六月二十六日

佐世保軍港規則中左ノ通改正ス

第七條 鎮守府司令長官ハ艦船第一區内ニ入ラントスルニ當リ其ノ積載物中危険ト認ムルモノアルトキハ之ヲ卸サシムルコトアルヘシ

第八條 凡テ艦船ハ鎮守府司令長官トノ特許アルモノ、外火藥庫ヲ距ル百三十間以内ニ進入スルコトヲ禁ス瀛艦點火中ノ小蒸瀛船及其ノ他一切ノ火氣ヲ有スル船舟亦同シ

軍港ノ山林原野ニ於テ濫リニ焚火スヘカラス

第九條 軍港ニ於テハ禮砲號砲及鎮守府司令長官ノ特許ヲ得タルモノ、外銃砲及水雷ノ發射其ノ他一切ノ爆發物ヲ發火スルコトヲ禁ス
陸上ニ於ケル公私ノ家屋ヲ距ルコト七十五間以内ノ海上ニ於テハ禮砲號砲ノ類ト雖一切銃砲ノ發砲ヲ爲スコトヲ禁ス

○海軍省令第十四號 明治三十年七月十七日

舞鶴軍港規則(本文畧ス)

○海軍省令第十二號 明治三十年六月二十六日

竹敷要港規則中左ノ通改正ス

第四條ヲ第四條甲トシ其ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
第四條乙 要港部内司令官ハ艦船海軍用地ヲ距ル五百間以内ニ入ラントスルニ當リ其ノ積載物中危険ト認ムルモノアルトキハ之ヲ卸サシムルコトアル

第六條ニ左ノ一項ヲ加フ

陸上ニ於ケル公私ノ家屋ヲ距ルコト七十五間以内ノ海上ニ於テハ禮砲號砲ノ類ト雖一切銃砲ノ發砲ヲ爲スコトヲ禁ス

第三十三章 違警罪

○海軍省訓令第一號 明治三十年五月二十六日

警視廳 北海道廳 府縣東京府憲兵司令部

海軍々人軍屬ノ犯シタル違警罪ヲ憲兵隊若クハ警察署ニ於テ違警罪即決例ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ其所屬長官若クハ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

第三十九章 遺流失物及難破船

○遞信省令第十九號 明治三十年六月二十六日

第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ殘務ヲ行フニ當リ左ニ掲クル事項ニ該當シ

タルトキハ當該船長船長不在ナルトキハ代理者ニ於テ其ノ地若ハ爾後始メテ到著シタル地ノ船舶司檢所同支所警察署警察分署市町村役場若ハ浦役場外國ニ在テハ領事館若ハ貿易事務館ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

- 一 其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ
 - 二 自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈沒セシメタルトキ
 - 三 人ヲ殺傷シタルトキ
 - 四 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メタルトキ
 - 五 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ殘務ヲ怠リタルトキ
 - 六 亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ
- 第二條 第一條各號ノ事項ニ該當スル事實アリタルコトヲ認知シ若ハ其事實アリト思料シタル者ハ其ノ所在地ニ於テ第一條ニ掲クル官廳若ハ公署ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ
- 第三條 第一條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第四條 本令ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第五條 明治二十六年遞信省令第五條海難取調手續明治二十八年遞信省令第一號外國航海中海難届出手續ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十二章 衛生

○内務省令第二號 明治三十年三月九日

藥品ノ封緘ニ印紙ヲ貼付スル者ハ明治二十年六月内務省告示第二號衛生試驗所検査印紙ト同色若クハ之ニ紛リシキ外觀ヲ有スルモノヲ用ヒ封緘ヲ爲スコトヲ得ス

藥品其他飲食物等ノ検査ヲ以テ營業トスル者ハ其検査所ノ名稱又ハ名稱ノ附記ニ衛生試驗所又ハ同音ノ文字ヲ使用スルコトヲ得ス

本令施行前其ノ検査所ノ名稱又ハ名稱ノ附記ニ衛生試驗所又ハ同音ノ文字ヲ使用シタル者ハ本令施行ノ日ヨリ改稱スヘシ

本令ニ違背シタル者ハ拾圓以内ノ罰金ニ處ス

本令ハ明治三十年六月一日ヨリ施行ス

○内務省訓令第十一號 明治三十年五月廿九日

警視廳 府縣東京府 除ク

明治十五年當省達乙第十號明治二十年當省訓令第二十六號明治二十一年當省訓令第二十六號明治二十二年當省訓令第二十七號ヲ廢止ス

○内務省訓令第九號 明治三十年五月六日

廳 府 縣

明治十八年九月内務省甲第三十一號達明治二十三年十月内務省訓第六六八號訓令ヲ廢止ス

○内務省令第十五號 明治三十年六月五日

検査委員設置規則

第一條 検査委員ハ廳府縣郡島廳ノ官吏醫師藥劑師等ニ就キ府縣知事東京府ハ警視廳ハニ命スルコトヲ得

第二條 検査委員ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ傳染病豫防事務ノ監督廳府縣ニ於テ施行スル船舶瀛車ノ検査其ノ他傳染病豫防救治ニ關スル事務ニ從事ス

第三條 検査委員ノ設置及廢止ハ之ヲ告示スヘシ

第四條 検査委員ノ組織及職務ハ第五條以下ニ準據スヘシ但廳府縣ノ本廳ニ限

リ検査委員ヲ置キ又ハ郡市島ニ限リ検査委員ヲ配置スルモ妨ナシ

第五條 廳府縣ノ本廳ニ検査委員長一人ヲ置ク但必要アルトキハ副長一人又ハ數人ヲ置ク

検査委員長ハ警部長警視廳ハ副長ハ委員中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第六條 府縣知事ハ郡市島ニ検査委員事務所ヲ置キ其ノ郡市島内ニ屬スル第二條ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第七條 検査委員事務所ニ所長一人及副長一人又ハ數人ヲ置ク

検査委員事務所長ハ郡長島司又ハ警察署長ニ副長ハ委員中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第八條 検査委員ノ職務章程ハ府縣知事之ヲ定ム

警察法規類聚終

明治三十年九月二十日出版版權

印刷發行

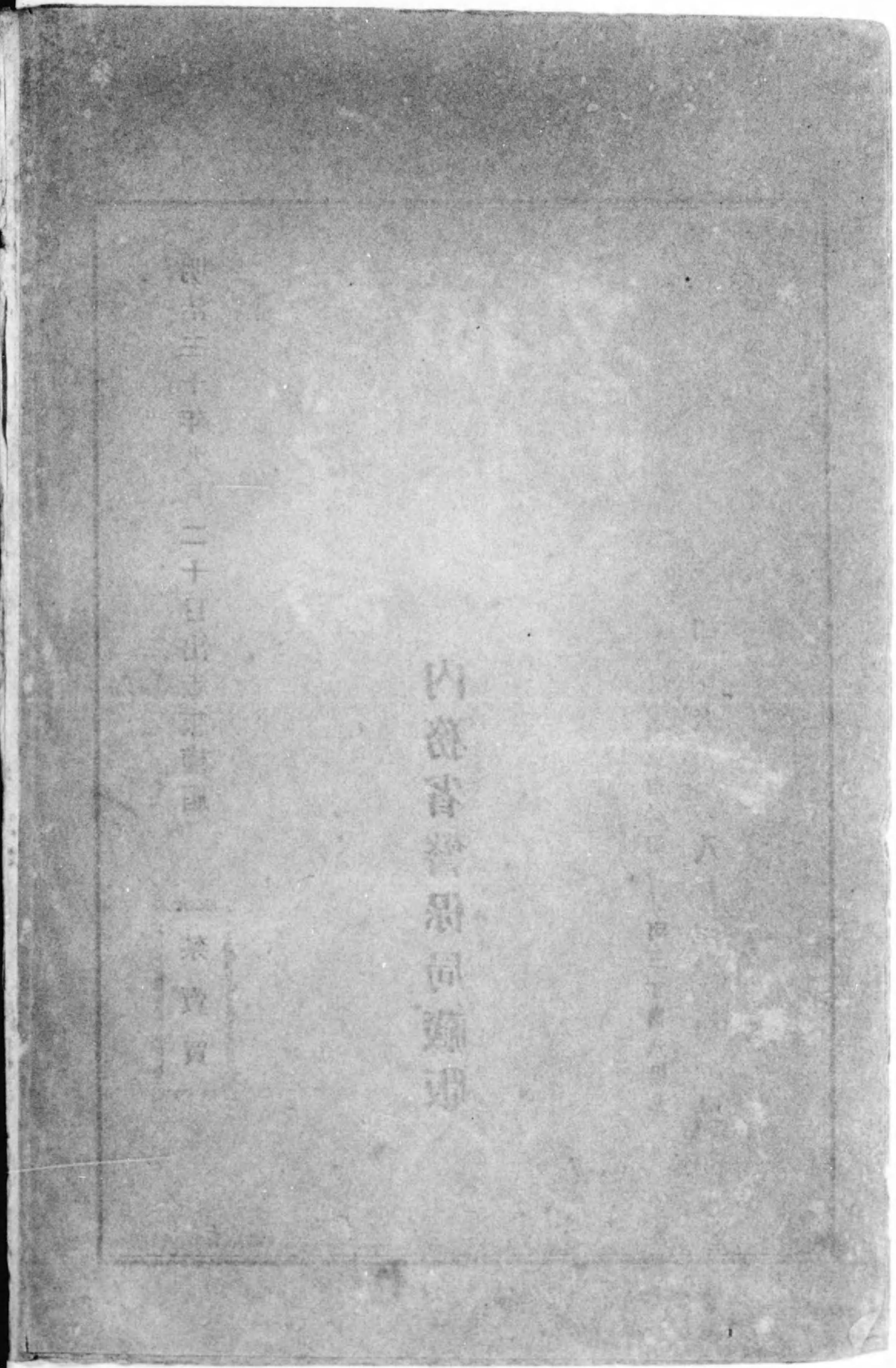
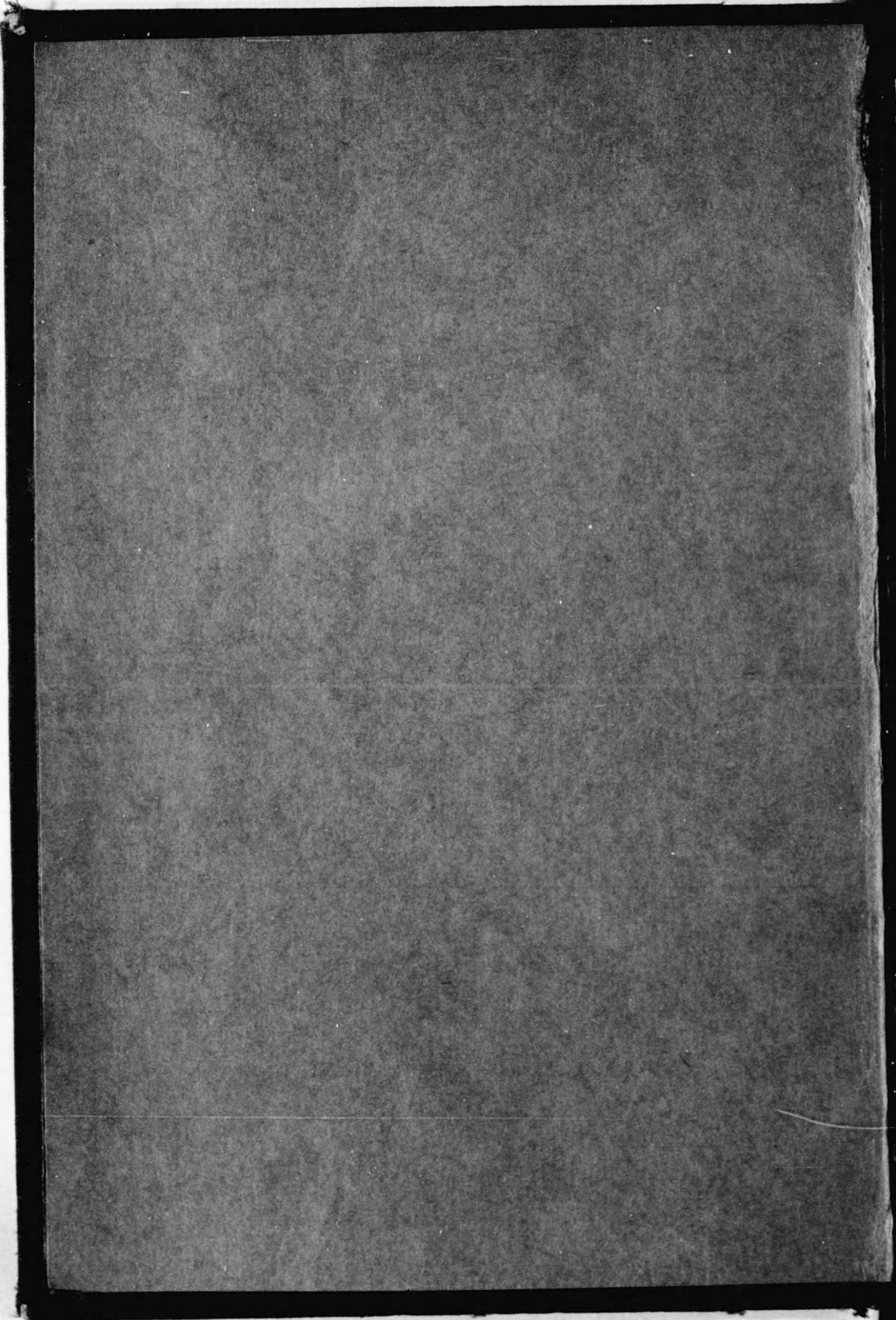
禁賣買

內務省警保局藏版



東京市神田區錦町三丁目八番地

印刷者 八尾新助



內務部警務司同編

海軍部... 二十... 茶... 買

